

■スピリチャル・ユニオンノ行レン事ヲ希図スル

(井深樨之助宛書簡「明治21(1888)年11月12日」『新島全集』3巻、675頁)

この言葉は、教会合同運動に反対する新島に対して理由を問
いただした井深樨之助への回答書簡の中に確認できる。

明治18(1885)年以降、日本における福音主義的キリス
ト教の定着に伴い、日本基督教一致教会(長老主義)と日本組
合教会(会衆主義)の合同への熱意が高まった。しかし、新島
は教会合同推進派が少数の反対派を切り捨てることを是とする
論理に賛同しなかった。同質化による自己絶対的な自己理解が
潜在する合同推進派に対して、新島はマタイによる福音書12章
20節(イザヤ書42章1-4節参照)の言葉と李白の言葉を引用
しつつ、『傷メル葦ヲ折ルコトナク、煙レル麻ヲ熄スコトナシ』

小崎 眞こざき まこと
(同志社女子大学生活科学部教授)

(赤インク) 驕虞不折生草茎 此レハ実ニ小生ノ心情ヲ貫キタ
ルモノナリ」(『新島全集』4巻、148頁)と意見する。新島
は、異質と共存し得る自由(真誠の自由)を見つめた。ゆえに
退学させられた学生たちに思いを寄せて「諸君ヨ一人ハ大切
ナリ、一人ハ大切ナリ」(『新島全集』1巻、107頁)と語つ
た。自らの価値観と異なる人との出会いこそが、真の討議によ
り「神と共に知る」世界を拓き得ることを新島は確信してい
たのであろう。

価値の多様化した今日の状況ゆえにこそ、「スピリチャル・
ユニオン」に根ざした教育共同体の実現が期待される。



Doshisha college song

Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。

その学徒の精神的、肉体的に、

神のため、祖国のため、生きんという

一つの崇高な目的を。

親愛なる母校よ、同志社の学徒は、

ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。

たとえ、世界くまなく、広くはるかに、

われらさまようとも、汝の教訓は、

われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)